

令和3年(2021年)度 地域連携活動報告書

連携先名称：福島県浪江町

協定締結日：2019年1月31日

活動状況：継続中

連携先窓口：福島県浪江町農業課 金山信一様

活動資金：補助金

担当教員(所属)：上岡美保(国際食農科学科)

活動体制(単位)：大学

関連教員(所属)：高畑健(農学科)、入江彰昭(地域創成学科)、
井形雅代(国際バイオビジネス学科)、
黒瀧秀久・范為仁・菅原優・小川繁幸(自然資源経営学科)

活動目的：

本学の学生を中心にインターンシップ型の教育研究プログラム「インターンシップ型農業・農村総合活性化戦略プロジェクト」を実施して、新規就農や地域企業への就職や関係人口としての「復興支援サポーター」を育成し、地域企業等との戦略的プロジェクトによって地域活性化に取り組む。

活動内容・成果：

活動内容は、本学の3キャンパス(世田谷・厚木・オホーツク)を基盤にして、浪江町、(株)舞台ファームと連携したインターンシップ型の教育研究プログラムとして、「復興浪江学(3回)」、「新規就農実践講座(3回)」、「一般農業実習プログラムコース(2回)」、「特別インターンコース(3回)」、「特別実習プロジェクトコース(ペピーノ、玉ねぎ、桜の苗木)」を実施した。活動成果報告会・シンポジウムとして、学生・町民(農家を含む)・役場職員によるワークショップを実施して、学生主体の現地活動企画などを検討した。

(1) 学生・町民向けオンライン・対面併用「復興浪江学」の開催(3回)

・9月24日 第1回「復興浪江学」を開催(オンライン)

講師・山本祐司(東京農業大学教授)『あらためて玄米を見直しましょう！
—玄米が生活習慣病に有効な訳—』

- オンライン参加：本学教職員 5名、学生 24名
- ・11月14日 第2回「復興浪江学」を開催（現地）
講師・高橋大就氏（東の食の会専務理事・福島県浜通り地域代表）
『なぜ今、浪江の農業が一番熱いのか』
現地参加：本学教職員 4名、学生 18名
 - ・1月9日 第3回「復興浪江学」を開催（現地）
東日本大震災・原子力災害伝承館の見学（語り部コース）
現地参加：本学教職員 6名、学生 15名
- (2) 学生・社会人向けの「新規就農実践講座」の開催（3回）
- ・9月24日 第1回「新規就農実践講座」（オンライン）
講師・黒瀧秀久（東京農業大学教授）
『新規就農の動向と求められる人材像』
講師・金山信一氏（浪江町役場農林水産課長）
『浪江町農業の概要と就農支援制度～なみえではじめる農業～』
オンライン参加：本学教職員 5名 学生 24名 社会人 5名
 - ・11月14日 第2回「新規就農実践講座」（現地）
講師・石原北斗氏（㈱マイファーム取締役）『営農計画の立て方』
講師・和泉 亘氏（浪江町で新規就農）『浪江町への移住と就農するまで』
現地参加：本学教職員 4名 学生 18名 社会人 3名
 - ・12月18日～19日（2日間） 第3回「新規就農実践講座」（現地）
講師・菅原優（東京農業大学教授）、石原北斗氏（㈱マイファーム取締役）
『新規就農ビジネスプランづくりと発表』
現地参加：本学教職員 6名 学生 22名
- (3) 学生・社会人向け「一般農業実習体験プログラムコース」の実施（2回）
- ・10月28日～29日（2日間）「エゴマ収穫実習」（現地）
石井農園でのエゴマ収穫および脱穀作業
現地参加：本学教職員 5名 学生 17名
 - ・12月18日～19日（2日間）「浪江復興米の販売実習」（現地）
道の駅「なみえ」での「浪江復興米」の販売実習
現地参加：本学教職員 6名 学生 22名



(4) 学生向け「特別インターンコース（短期）」の実施（3回）

・10月2日「現地見学会」（現地）

菟宿地区カントリーエレベータ施設の見学、いちじく生産者の視察等

現地参加：本学教職員 4名 学生 16名

・11月13日「現地見学会」（現地）

鳥獣対策用フェンス設置、棚塩地区カントリーエレベータ施設、震災遺構・浪江町立請戸小学校の見学

現地参加：本学教職員 4名 学生 18名

・12月19日「現地見学会」（現地） 学生22名参加

太陽光発電施設等の見学

現地参加：本学教職員 6名 学生 22名

(5) 活動成果報告会・シンポジウムの開催

・1月10日「基調講演・ワークショップ」（現地）

講師・伊藤啓一氏（株式会社舞台ファーム常務取締役）『被災地の農業「新興」の取り組みと農業を担う若者への期待』およびワークショップ「今年度活動と次年度活動に向けた意見交換」、学生による活動成果報告会

現地参加：本学教職員6名 学生15名 町民8名



成果は、第1に「新規就農実践講座」や「特別インターンコース」を組み込んだ体系的なインターンシップ型の教育研究プログラムを実施し、実人数として92名、延べ人数として164名の学生が座学・ワークショップ、体験実習を行った。将来的に浪江町で新規就農を希望する学生を確認できた。第2に将来的な交流人口・関係人口として期待できる大学生を「復興支援サポーター」として28名輩出することができた。

課題・改善点：

コロナ禍により9月一杯まで、学生の現地での活動が制限されたが、10月以降は週末を中心に現地での各種実習や講座の実施をすることができた。

2018年度以降からの参加学生と今年度から参加する学生の意識には違いも見られ、学生の多様なニーズへの対応には課題が出てきた。

浪江町で実施した講座（座学）と実習のバランスを考慮し、現地活動・実習の時間をさらに有効的に確保できるよう設計する。